

長崎戦後サークル誌「芽だち」総目次

楠田, 剛士
九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/19422>

出版情報 : 九大日文. 15, pp.14-40, 2010-03-31. 九州大学日本語文学会
バージョン :
権利関係 :

長崎戦後サークル誌「芽だち」 総目次

KUSUDA
TAKAYORI
楠田 剛士 編

長崎の文学サークル誌「芽だち」^①は一九五三年六月二十一日に創刊され、一九五九年八月九日、三十八号で終刊した。雑誌の発行状況、記事の特徴、関連のあるサークルなどについては、拙稿「山田かんとサークル誌」(『原爆文学研究』8、二〇〇九・十二)で述べた^②。本稿はそれに続いて、「芽だち」の総目次を記録するものである。

創刊第一号の「発刊にあたって」は、「こんど文学を愛する者達が集って、自分達の作った歌や詩や小説をこんな形で出すことにしました。／今、会社に、工場に、町に、村に、働らく人達のいる処、全国のどこにでも作られている文学サークルの一つとして「芽だち」の名をその末席に連ねさせて貰うわけです」と書き出されている。一九五〇年代の全国的なサークル運動における長崎の事例として、まずは「芽だち」を戦後文化運動史上に位置づけることができる。それをひとつのサンプルとして取り上げることによって、つながりのある長崎市内外のサークルの動きもとらえられるだろう。また、本誌に発表された詩歌・創作・評論の数々は、一九五〇年代の長崎の労働者によ

る表現活動として、長崎の戦後文学・文化の貴重な証言である。特に、原爆に関する詩がたびたび発表され、ほぼ毎年八月に特集が組まれたことは、「芽だち」に被爆体験をもつ会員たちが少なくなく、彼らがいかに原爆を、社会や生活のみならず文学の問題として考えようとしていたかを意味する。このようにサークル誌における原爆表象を考える上でも「芽だち」は見逃せない。「芽だち」を論じたものとして、会員の一人であった山田かんの先駆的な仕事がある(『長崎・詩と詩人たち——反原爆表現の系譜』汐文社、一九八四・十二)。だが、未だ明らかになっていないことも多く、本誌の記事情報を共有化し、今後の研究を進めるために、総目次を作成した。

なお、長崎の文芸同人誌の総目次として、下野孝文・横手一彦『『地人』総目次』(『綾説Ⅱ』02、二〇〇一・八)と、長野秀樹・中原豊『『橋』総目次』(『同前』)がある。「地人」に掲載された原爆文学論に反応するような批評が「芽だち」誌面に登場することを拙稿(前掲)で触れたが、本稿が「地人」(一九五五―五八年、全十四号)、「橋」(一九六一―六五年、全十六号)の総目次と併読されることで、長崎におけるサークル運動の人や言葉のつながりがさらに見えてくるにちがいない。

【注記】

① 「県内初期の原爆詩人たち(6)」(『長崎新聞』一九八五・七・二十八)によれば、高村洋一(本名・田川実)が「ほぼ三十八号の終刊まで「芽だち」にかかわり、大半の編集後記を執筆している」とあり、第二号に「Y」

として記された「編集後記」は、「高村洋一」のものである。第四号の「編集後記」や無記名の「編集後記」の大半も、高村が記したと推察される。また、短歌作品を多く寄せたヤナセ・イチロー（柳瀬一郎）は、表紙の版面を担当したこともあり、「Y」と記された「カット」はヤナセのものだと考えられる。

2 拙稿において、同人の権藤菊枝と森菊枝を別記していたが、両者は同一人物であった。訂正しお詫び申し上げる。ご教示いただいた鎌田信子氏にお礼申し上げます。

※ 本総目次は、故山田かん氏所蔵の原本資料を借用し作成された。閲覧の便宜をはかってくださった山田和子氏に記して感謝申し上げます。

（九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程三年）

凡例

一、本総目次は、「芽だち」所収の文章を掲載された順序で作成したものである。

一、原本の号数表記は、特に初期のものが不揃いであるため、本総目次では便宜上「第□号」に統一した。また、発行年・月・日がすべて記載されているのは、第一―十六、三十六、三十八号で、それ以外は発行年月のみである。

一、各項目は、基本的に分類、標題、著者名、掲載頁の順で記した。掲載が二頁以上にわたる場合は、開始頁―終了頁とし

ている。別の頁に飛ぶ記事については、読点に続けてもう一つの頁数を記した。例えば、「25―26、24」とあるのは、25頁から記事が始まり、26頁の続きが24頁に飛んで、そこで記事が終わることを表している。また、裏表紙裏に頁番号がある場合でも「裏表紙裏」と表記を統一した。

一、分類は、本文表記に従った。ただし、本文にない場合は目次に抛り、目次にもない場合は、編者の判断で付した。

一、標題・著者名は、本文表記に従った。ただし、本文に無い場合や明らかな誤記と考えられるものは目次に抛った。著者名はあえて表記の統一をはかっていない。短歌、俳句、川柳で作品数だけ示したものは無題を表す。

一、表紙絵、カットについては、著者名が分かるものを記した。一、仮名遣いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に、異体字は正字に改めた。

一、*印は編者による注記である。

編集発行者

文学サークル（第一号）

ながさきめだち文学サークル（第二号）

ながさき芽だち文学サークル（第三号―三十八号）

発行責任者（*五号から明記）

長崎市炉粕町二二 内野四郎（第五―十六号）

長崎市炉粕町二二 中村方 内野四郎（第十七―三十八号）

第一号 一九五二年六月二十一日 発行

(*巻頭言) 発刊にあたって

(*詩) おいつくろうよ仲間達 1

(*詩) 強い草達の歌 1

(*詩) チーセン 2

(*詩) 壁ぬり 3—4

(*広告) 趙基天著・許南麒訳『白頭山』(ハト書房) 4

(*随筆) 私は真実がほしい 4

創作 がま 6—7

詩 昼飯時 8

短歌 (*五首) ひごじん 8

(*歌詞) 西岡音頭 ひごじん 8

編集後記 8

第二号 一九五二年八月一日 発行

(*歌詞) 民族解放の歌(人民文学七月号より転載) 1

(*巻頭言) 時感 1

詩 ダリア 2

となりの小母さん 2

軍艦の絵 2

短歌 悲憤(*五首) 3

高村洋一 2

むらやま・たかし 2

むらやま・たかし 2

松浦靖 3

詩 一九四五年八月九日(*三首)むらやま・たかし 3

兄の声 3

あきちで 3

創作 ばんばん狂詩曲 4—7

浜本さん 7—8

(*広告) 中通書店 8

創作 藤井一曹への手紙 9—11

(*随筆) 原爆の思い出 11、8

(*詩) 母を想う ひごじん 8

めだち仲間の会のきまり 12

回覧文庫案内(一) 12

(*広告) 野間宏・木島始他『わが祖国の詩』(理論社) 12

編集後記 Y(*高村洋一) 12

第三号 一九五二年九月一日 発行

(*歌詞) 平和音頭 小川銚 表紙裏

目次 1

詩 白樺 セルゲイ・ワシーリコフ(長田志郎訳) 1

(*巻頭言) 第三号に寄せて 表紙裏

創作 墓地にて 峽草郎 2—3

短歌 講和(*三首) 竜宮きよし 3

詩 泣けない仲間 竜宮きよし 4

青年よ起て ひごじん 4

盆 おやま・くにお

あの夜月が出たならば

池井晨朔

5

今宵明月だ

池井晨朔

5

バナナの木

はやま・みきお

6

短歌
メーデー（*六首）

竜宮きよし

6

炎天（*五首）

竜宮きよし

6

作品評
思いついたまゝ

金井義郎

7

詩
新しい芽（人民文学より転載）

まき・あきら

7

小品
ともだち

吉村高

8 | 10

創作
天びん棒

赤馬とおる

10 | 12

（*広告）
サークル・ニュース

12

めだち仲間の会のきまり

裏表紙裏

投稿についてお願い

裏表紙裏

回覧文庫案内（二）

裏表紙裏

編集後記

裏表紙裏

*小川銑の歌詞は「人民文学」（一九五二・八）に、ワシーリコフの詩は「人民文学」（一九五一・十二）に掲載

第四号 一九五二年十月二日 発行（*二日は一日か）

（*楽譜） 民族解放の歌

目次

詩 寡婦と母親のねがい（世界抵抗詩選） エリユアール 1

表紙裏

表紙裏

（*巻頭言）サークル発展のために

詩 そのお前が

うちのことろう

1

詩 Yさんに

いば・しずお

2

小品 びい玉

むらやま・たかし

3

投稿について

茂木養吉

4 | 5

短歌（*十八首）

砂原一

5

歌詞（*四首）
母のねがい

ひごじん

6

評論 勤労者の文字

西山清

6 | 9

替唄 かわいゝ予備隊さん

ひこくみん

9

詩 俺達の一票を

はやま・みきお

10

再びごあいさつに

池井晨朔

11

小品 蝙蝠傘修繕屋

はやま・みきお

12 | 14

作品評 人間性というもの

金井義郎

14

（*広告）
創作 鎌

おやま・くにお

14

現場小屋の昼

うちの・しろう

15

編集後記

Y（*高村洋一）

16

サークル・ニュース

裏表紙裏

第五号 一九五二年十一月一日 発行

（*楽譜） 旗風

目次

詩 おかもと・よしてる 表紙裏

表紙裏

詩 にはんあぶない（小学四年生 武田くに『お父さんを生

かしたい』より）

（*巻頭言）時感

創作 輸送船 おやま・くに お

短歌 映画・原爆の子（*十首） 松浦靖 2

詩 巡査になった友へ 池井晨朔 5

或る夕方の断想―生きる願い― 栗風一平 6

秋 はやま・みきお 7

若葉の歌 あきずみ 8

二度と踏むまい 山田林久 8

梨売のバーさん あづま 9

短歌 秋のいのち（*十首） 松田研一 10

さぼてん（*五首） 松田研一 11

囚捕（*五首） 松浦靖 11

（*四首） 葵雅子 11

（*三首） 茂木正人 11

（*三首） 岸比沙子 11

（*三首） 内海健一郎 11

（*三首） 蘭采 11

（*随筆） 病床から（お金のないこと／高い薬を買うこと） 12

小品 おじや／パチンコ つるしま・じろう 13

創作 職安の階級 うちの・しろう 14

ベルシヤ絨毯 くさま・ごろう 15

娯楽版（*詩） 明るい世界を ひごじん 16

ばつてん狂歌（*五首） 16

がんど口 16

川柳（*五首） 16

（*歌詞） よしだのかごや 16

旗風 16

編集後記 16

奥付 16

第六号 1952年12月1日 発行 16

（*詩） わたしの愛する祖国のために 貴島雄一（北海道） 表紙裏

目次 1

（*巻頭言） 1952年をおくる 表紙裏

詩 海の火 はやま・みきお 2

祭のくる日 池井晨朔 3

かけとり はやま・みきお 3

歯と皮膚と 池井晨朔 4

網 つるしま・じろう 5

蟹 森茂 6

現場小屋にて うちの・しろう 7

（*随筆） 雲―小さなスケッチ帖から― 峽草郎 8

短歌 秋草（*十首） 松浦靖 9

娯楽版 川柳（*五首） 10

（ヤシキスガ） 洋鬼不好 10

(*詩) 野良犬・吉田さん
川柳(*五句) 吉坊 10 | 11

創作 台湾人労働者 11
一口咄(*二編) (*無記名) 10、11
くさま・ごろう

雨合羽 すぎむら・ひろ子 12

短歌 療養歌集より(*七首) 田原寂水 13

俳句 雑詠(*七句) 東藤花雪 14

詩寸評 芽だち四号 花留三平 14 | 15

作品評 “芽だち”の短歌について 松浦靖 15

作品批評 五号の創作欄 金井義郎 16

(*広告) 中通書店 裏表紙裏 16

あとがき 裏表紙裏 16

奥付 裏表紙裏 16

第七号 一九五三年一月一日 発行

(*詩) 祖国 表紙裏

巻頭言 1

目次 1

創作 盗まれた金 西島耕治 2 | 5

詩 麦 森茂 5

僕らが胸を張っているのは 坂尾召太 6

谷そこの街 むらやま・たかし 7

足音 むらやま・たかし 7

花もようのごむまり うちの・しろう 8

母ちゃん的首を切らないで下さい 坂尾召太 9

消えぬうらみ はやま・みきお 10

女の人達 池井晨朔 11

三つの旗 むらもと・ひかる 11

首切り ひごじん 12

人參 池井晨朔 13

朝 あづま・よしお 13

短歌 (*四首) やました・かずこ 14

(*三首) 葵雅子 14

(*三首) 蘭栄 14

(*三首) 田上三杯 14

(*三首) 山谷瓢八 14

(*三首) 茂木正人 14

(*三首) 内海健一郎 15

(*三首) 岸比沙子 15

(*三首) 若川肇 15

(*十四首) 田原寂水 15

(*二句) 邦坊 16

(*四句) がわたる 16

(*六句) 吉坊 16

(*七句) 清すけ 16

(*カット) S I R O 16

新版トンコ節 がわたる 17

川柳 (*三句) ポン吉 17
 創作 坂段のある道 18
 生きる女 20
 めぐたち回覧文庫 22

編集後記 裏表紙裏 22
 裏表紙裏

奥付 裏表紙裏

第八号 一九五三年二月一日 発行

(*詩) 「小林多喜二に捧げる」より 炎は燃えている

若杉卓二(北海道) 表紙裏

目次 表紙裏 1

巻頭言 白石二郎 2

創作 おしげ叔母のこと 白石二郎 4

短歌 (*三首) たわら・いし 4

(*二首) 田原寂水 4

(*二首) 松川からの便り 本田昇 5

詩 銀杏 本田昇 6

賀状 前進座第二班／前進座 大久保光代／株式会社共 6

同映画社九州支社／青年文化協会(中央) 土方与 7

平／九州擁護連絡会議・平和擁護福岡県委員会 7

事務局長 赤塚欣二 7

詩 ナターシヤを憶う 北見健二 8

多喜二のあとに うちの・しろう 9

(*随筆) 彼と天皇 坂尾召太 10

コント 知事という名の電車 頼田九郎 12

映画評 ひめゆりの乙女たち 堀要 14

(*随筆) 原爆凶展を観て 西山清 15

随筆 釜のふたをかぶせられた花嫁 野中伸吾 16

短歌 (*四首) 白石二郎 16

(*二首) 田原寂水 16

(*二首) たわら・いし 16

(*随筆) 私は平和を求める 立花哲 17

俳句 (*五句) 花雪 17

川柳 (*十句) 吉坊 17

(*二句) ぼん吉 17

芽だち文学サークルを囲む職場懇談会 (出席者(読者)里 17

田丸 西藤、鈴山、田和、坂尾、村尾の皆さん(本誌編集 17

員) ひごじん、くさま・ごろう) 18

創作 働らくなから 蒲井春二 19

(*評論) 多喜二覚え書 佐々木五郎 20

編集後記 23

作品募集 裏表紙裏 22

奥付 裏表紙裏 裏表紙裏

(*広告) 中通書店 裏表紙

*裏表紙裏は25にあたる

第九号 一九五三年三月一日 発行（*奥付「二月一日」を訂す）

（*詩） 少数のフランス人知識人は敵につかえた

（『エリュアール詩集』より）

表紙裏

童話 キヤラメル工場
詩 赤いカマボコ
座談会 “真空地帯”を観て

（*七句） ポン吉
佐々木五郎
はやま・みきお

目次

表紙裏

中谷／石本／白石（白石二郎記）

14—15

詩 サークル

高村洋一

1

森安さん

成沢藤人

2

荒海

はやま・みきお

3

“あゝ多喜二よ”——小林多喜二の霊を慰む——

村雨哲郎

3

原爆の図 幽霊”を観て

白石二郎

4

雀の歌

むらもと・ひかる

4

“救ってくれた光り”

森茂

5

2月20日長崎職安朝の一酌 成沢藤人

成沢藤人

6

原稿募集

「芽たち」編集部

6

短歌

応給（*十七首）

松田研一

7

（*二首）

本田広美

7

“ひめゆりの塔”を観て

（*四首） 白石二郎

8

（*六首）

たわら・いし

8

（*三首）

森茂

8

（*五首）

田原寂水

8

川柳

（*四句）

八郎

9

（*十句）

吉坊

9

（*五句）

悪太郎

9

第十号 一九五三年四月一日 発行

（*短歌）働けど——啄木歌集より——

目次

表紙裏

巻頭言

表紙裏

創作 船出

西島耕治

2—5

10—12 9

“中和の中の若さを”

南山敬一

16

春になつたら

本田広美

16

二月号について

金井義郎

17

生々しい職場を

（*無記名）

18

会員の声

一漁船々員

18

身近かなものに

うちの・しろう

18

お知らせ（*受贈「海峡」「新萌文学」「虹」「くわずみ」）

西島耕治

18

村会議員の一家

坂尾召太

19—21

めぐち

22—裏表紙裏

裏表紙裏

あとがき

奥付

裏表紙

*裏表紙裏は25にあたる

詩

スターリンの死を悼む

5

スコップ一杯の石炭が

石島喜作

6

石けん拭き

石島喜作

7

せんきよ

うちの・しろう

8

二月二十五日松ヶ枝現場にて

成沢藤人

9

俺は胸を張って

おやま・くにお

10

スターリンの死について

高崎進

11

短歌

願いと貧と(*九首)

松田研一

12

大いなる星(*十首)

たわら・いし

13

川柳

(*九句)

吉坊

14

(*三句)

八郎

14

(*三句)

ボン吉

14

なぞなぞ(*七問)

へんたろ

14

創作

父の抗議

成瀬藤人

14

(*随筆)

私の日記より"電燈屋"

くさま・ごろう

15

原稿募集

私の日記より―その2―

「芽だち」編集部

17

(*随筆)

私の日記より―その2―

帰り途

17

(*手紙)

松川からの礼状―宮城の救援会より「芽だち」会

くさま・ごろう

18

作品評

員の皆さんへ―

金井義郎

19

編集後記

身近かなもの

裏表紙裏

20

奥付

裏表紙裏

裏表紙裏

19

(*広告)

前進座「屈原物語」、中通書店

裏表紙

20

第十一号 一九五三年六月一日 発行

(*詩) (マヤコフスキー詩集より)

目次

表紙裏

巻頭言

表紙裏

創作 黄河

成沢藤人

2-6

短歌 生くるべく(*三首)

松田研一

5

貧しさのなかに(*三首)

たわら・いし

5

かなしきこと(*二首)

栗風一平

5

原稿募集

「芽だち」編集部

6

創作 製缶工場

浦川春夫

7-11

詩 組合旗

坂尾召太

9

創作 モデル衛生村

西島耕治

12-15

川柳 (*七句)

吉坊

15

(*七句) しりとりに川柳(*九句)

ボン吉

15

(*広告) 中通書店

ボン吉

15

詩 喜び

ほし・みちる

16

不思議な人々

ほし・みちる

17

花に寄せて

栗風一平

18

働く友へ

松井克己

19

愚なる人々

やま・きよし

19

彼方より

山春雄

20

短歌 明日になつたら 竜川みのる 21
 (*五首) 松田研一 22
 (*四首) 栗風一平 22
 (*三首) たわら・いし 23
 (*三首) 基英 23

(*映画評) 村八分 浦川春夫 24

(*広告) 映画「雲ながるる果てに」 24

(*作品評) 悪太郎の川柳より 佐々木五郎 25

職安メーデー記 歌声は轟く うちの・しろう 26

作品評 深さと広さ 金井義郎 28

お知らせ(*受贈「新萌文学」「虹」「くわみず」「熊本文学」) 裏表紙裏 28

あとがき 裏表紙裏 28

奥付 裏表紙裏 28

(*広告) 「人民文学」六月号、『日本と中国』(日本中国有効協会、
 「ソヴエト・ニュース」ソヴエト資料通信社) 裏表紙 28

第十二号 一九五三年七月一日 発行

(*詩) すがすがしい大気

ポール・エリュアール／木島始訳 表紙裏 21

目次 表紙裏 21

(*巻頭言) 一周年を迎えて

手伝いに行つて 白石二郎 2

詩 あの船は何だ 白石二郎 3

憶いだして下さい 黒岩鉄雄 4

俺らの抗議 成沢藤人 5

春の訪れ やま・きよし 5

家屋撤去 新井八郎 6

たちのき 新井八郎 6

雨 むらやま・たかし 7

父と子 野中美穂 7

職安応能賃金 岩瀬郎 8

暗さ むらやま・たかし 8

原稿募集 「芽だち」編集部 9

短歌 (*五首) たわら・いし 10

(*十首) 柳瀬一郎 10

(*九首) 葵真砂子 11

(*随筆) 友人と税官吏 梅田至 12

(*随筆) 梅雨期 梅田至 13

詩 蟻 佐野五助 13

(*随筆) 或る夜の出来事 あづま・よしを 14

創作 冤罪 別府藤 15

「芽だち」を囲む職場懇談会覚え書 すぎむら・ひろし 20

(*広告) 映画「蟹工船」 村田浩一郎(新萌文学編集部) 21

作品評 芽だちに寄せる 裏表紙裏 22

あとがき 裏表紙裏 22

奥付 裏表紙裏 22

(*広告) 「新日本文学」七月号、「人民文学」七月号 裏表紙 22

第十三号 一九五三年八月一日 発行

表紙絵	三菱長崎造船所	山波善雄	表紙
(*詩)	げんしばくたん(峠三吉編集「われらの詩」第十六号)	浜田淳子(小学三年)	表紙裏
目次	(子と共に平和のうたをより)		表紙裏
(*巻頭言)	原爆の日を迎えて		1
創作	傷痕	浦川春夫	2-7
詩	再会	かずを・しろう	5
短信	怒りの夜	熊本保養院文学サークル/前進座一同	7
詩	頑張れ信吉よ	黒岩鉄雄	8-9
水害		北見健二	10-11
傷痕去らぬ君と共に		かずを・しろう	11
直ちに答えよう		うちの・しろう	12-13
夜は去る		うちの・しろう	14
短歌	(*十一首)	如月弥生	15
(*随筆)	狂女	金井よし子	16
娯楽版	(*川柳)MSA(*七句)	別府藤	16
	(*詩)米に代りて	八郎	17
	特報娯楽版	ひごじん	17
	(*詩)猿芝居	ひごじん	18
	川柳(*八句)	凡太	19
		吉坊	20

童話	(*詩)船出	ひごじん	20
原稿募集	迷子の仔犬	黒岩鉄雄	21
創作	或る雨の夜に―僕の小さなスケッチ帖から―	「芽だち」編集部	21-22
(*その二)	崖の下(*第二回)	映草夫	23-24
作品評		むらやま・たかし	25-28
編集後記		編集部	裏表紙裏
奥付			裏表紙裏
(*広告)	九州平和大会、「平和のうたごえ」第二集		裏表紙

第十四号 一九五三年九月一日 発行

表紙絵	大波止	久間一郎	表紙
目次			表紙裏
(*詩)	バラとモクセイテラゴン『フランスの起床ラップ』より		1
創作	保安隊志願者	西島耕治	2-5
詩	親父の事	白石二郎	6-7
	カンナ	瑛スマ子	7
	自由	野添正	8
	何処かで	瑛スマ子	8
創作	大演習	別府藤	10-11
	S伯母さん	佐田友治	12-13
(*広告)	映画「君に捧げし命なりせば」		13

短歌 (*三首) 基英 14

川柳 (*八句) 吉坊 14

浦上刑務所案内 (*十三首) 野添正 14

創作 崖の下 (第二回) むらやま・たかし 15 | 20

詩 黙否 野添正 17

(*川柳) ローゼンベルグ夫妻を弔う (*一句) 吉坊 19

(*短信) 暑中お伺い申し上げます 北星映画株式会社九州支社 20

原稿募集 「芽だち」編集部 20

編集あとがき 裏表紙裏 裏表紙裏 裏表紙裏 裏表紙裏

奥付 裏表紙裏 裏表紙裏

(*広告) 「新日本文学」九月号、「人民文学」九月号 裏表紙裏

第十五号 一九五三年十月一日 発行

表紙絵 大浦の坂 久間一郎 表紙

目次 表紙裏

(*魯迅の句の引用) 1

創作 野田さんの怒り 白石二郎 2 | 4

短歌 坐り込み (*十一首) 松田研一 5

批評 再び暗さについて 泉田清 5

詩 出島の岸壁にて 白石二郎 6 | 7

短歌 生活抒情 (*十首) 金井よし子 8

雑詠 (*六首) 太田まさ子 9

愛児に寄せて (*四首) 太田まさ子 9

創作 冤罪—第二回— 別府藤 10 | 14, 7

短歌 かかる日に (*九首) 松田研一 13

創作 崖の下 (第三回) むらやま・たかし 15 | 20

川柳 (*八句) 吉坊 18

連絡のある他サークル (*虹、鉦石船、文学させば、熊本文学、くわみず、海峡) 20

原稿募集 「芽だち」編集部 20

(*批評) 芽だちの発展を期せよ いずみだ・きよし 裏表紙裏

編集あとがき 裏表紙裏 裏表紙裏 裏表紙裏

奥付 裏表紙裏 裏表紙裏

(*広告) 映画「ひろしま」、映画「赤い自転車」 裏表紙裏

第十六号 一九五三年十二月一日 発行

表紙絵 彦山 久間一郎 表紙

(*詩) サークルの友よ真実の友よ—十一月五日の判決を 鈴木信 (松川) 表紙裏— 1

目次 前に 2 | 3

評論 二つのこと 車大八 2 | 3

詩 十二月二十二日 池井朔 4 | 5

飯 白石二郎 5

短歌 (*八首) 金井よし子 6

嫁ぐ妹に (*五首) 太田まさ子 6 | 7

秋 (*五首) 太田まさ子 7

童話	(*三首)	岡本芳輝	7
岩と金剛石		黒岩鉄雄	8 12
感謝状	(*松川事件被告救援に關して)		13
随想	朝のでき事	山上照子	14
映画評論	最近の映画から	むらもと・しげる	15
川柳	(*六句)	ポン吉	16
	(*十四句)	吉坊	16 17
	(*二句)	八郎	17
寄稿	編集部皆さん	黒岩鉄雄	16 17、13
作品評	『崖の下』について	金井義郎	18
創作	にこよん暮し	別府藤	19 24
随想	私の日記から	別府藤	24
連絡ある他サークル			24
	(*虹、鉦石船、文学させば、熊本文学、くわみず、海峡)		24
原稿募集		「芽、たち」編集部	24
創作	三郎一家	大原忠	25 26、24
	半鐘—ある少女の綴り方から—	黒岩鉄雄	27 30
編集あとがき			30
奥付		裏表紙裏	30
(*広告)	芽、たち書房、江川葉局、江川葉舖	裏表紙	30

第十七号 一九五四年二月 発行

詩 ひとというひとの前で 武田久

表紙裏

目次	(*赤木健介の句の引用)		表紙裏
詩	判決と散髪	池井朔	1
	けだものの笑い	白石二郎	2
	苦しいけれど頑張ろう	やま・きよし	3
	声—ある夜貧しき人々の幻覚になやまされて—		4
	今日の落漠	栗風一平	5
	奪われるものは祖国の山河ばかりではない	池井朔	6
	いつまで黙っていたいなければならぬのか	塚原雄三	7
	十二月二十三日	うちの・しろう	8
ルポ	サセボ	田和利四郎	9
俳句	雑詠(*八句)	東草之介	10 11
映画案内	赤い自転車	(*無記名)	11
短歌	(*十四首)	松田研一	12 13
	(*五首)	金井よし子	13
(*日記)	手繰船生活雑記	宮下敏雄	14 15
川柳	(*九句)	吉坊	15
	(*五句)	八法子	15

賀状	熊本文学会一同／国立小浜療養所患者親和会		16
評論	作品の粗雑さについてなど—走り書き別府藤批判—	川尾渡	17 18

／前進座興業部

創作 にごよん暮し

別府藤

19 | 21

編集後記

「芽だち」編集部

裏表紙裏

原稿募集

「芽だち」編集部

裏表紙裏

奥付

裏表紙裏

第十八号 一九五四年四月 発行

表紙絵

住吉にて

久間一郎

表紙

目次

表紙裏

創作

(*句) (ゴリーキの「若い作家たちにあたえた手紙」より)

1

詩

さむい頃―僕の小さなスケッチ帖(その三)

2 | 4

詩

みどりなすくろかみ

4

詩

結びれる日も間近 はやま・みきお/はやま・さよ子

5

詩

あなたを誇らずにはいられない はやま・みきお

6 | 7

詩

旅行好きのN子の来た日に はやま・みきお

6

詩

希望

7

詩

―片隅の目―

8

詩

まだ母ちゃんはおかえつてこない 山田芳郎

9

詩

房々とゆれております

9

詩

平和の声

10

詩

便り

10

詩

祖国の土にて

11

詩

朝鮮の兄弟を忘れるな

12

マゲロ

竜太郎

12

(*手紙) 芽だち文学の皆様

千田礼子

12

作文 山切り

古賀光枝

13

評論 もつと暖かい批判を―批評のありかたについて―

黒岩鉄雄

14 | 16

(*手紙) 文化の交流を望む

三池合成文化サークル

16

創作 あらそい

新井八郎

17 | 18

川柳 (*十句)

吉坊

18

創作 消えた少年

堀康(カット 久間一郎)

19 | 21

編集後記

22

原稿募集

22

芽だち文学サークルにおはいりください

「芽だち」編集部

22

(芽だち文学サークル(仲間の会)のきまり)

裏表紙裏

連絡ある他サークル(*まつかわ、鉦石船、熊本文学、くわずみ、

虹、うたごえ、小療ニュース)

裏表紙裏

奥付

裏表紙裏

(*広告) 映画「狂宴」、映画「若き親衛隊」、映画「足摺岬」、

「人民中国」、「中国画報」

裏表紙

第十九号 一九五四年五月 発行

裏表紙

表紙絵

久間一郎

表紙

目次

久間一郎

1

創作

地下足袋

2 | 6

創作

白石二郎

2 | 6

車券拾い	栗風一平	7	目次	1
犬と越年斗争	くさま・ごろろう	8	(*巻頭言) 芽だち二周年にあたって	2
(*目次では「創作」私の日記から)	別府藤	9	泥棒の用心―民話より―	3
(*歌詞) のんき節	梅沢義幸	10	平和を守る会会員合作 (*後記は堀記)	4
詩	栗風一平	10	おふくろ	5
仕事帰りの道	池井朔	11	和泉明	6
死んだ男の背景	池井朔	12	おふくろ	6
随筆	金井よし子	13	月夜	6
日雇とり気質	滝沢昇	14	紡績女工になった娘	6
中国の思い出	吉坊	15	洋行と街吹く風	7
川柳	ポング	15	火熨斗の歌	8
(*三句)	千田礼子	15	俺はその場にいた	9
(*四句)	くさま・ごろろう	15	納豆売り	9
随筆	水つぽい酒	16	もう一言いわせて貰います―十九号掲載の川尾さ	10
想い出の五月	川尾渡	16	んの意見について―	10
(*批評)	別府藤	17	言葉と感動―池井さんの詩をめぐって―	11
『批評』ということ―黒岩鉄雄さんへよせる―	裏表紙裏	18	白石二郎	12
(*批評) 川尾氏の批判に答えて	裏表紙裏	18	池井朔	13
芽だち文学サークルにおはいりください	裏表紙裏	18	詩を武器とするために	14
(芽だち文学サークル(仲間の会)のきまり)	裏表紙裏	18	再び『批評』ということ―主に『サークル誌のあ	15
原稿募集	裏表紙裏	18	り方』にふれて―	16
あとがき	裏表紙裏	18	中国の思い出	17
奥付	裏表紙裏	18	私の日記から	17
			中国の思い出	19
			私の日記から	19
			映画「若き親衛隊」	20
			(*広告)	21
			私の日記から	21
			映画「若き親衛隊」	21
			M子の一日	21
			ろんど、編集部	22
			松田重造/大牟田、雑木林、編	23
			今戸敏行/八幡文学集団、鮎石船、細善介	23
			通信	23
			表紙	23
			表紙絵	23

第二十号 一九五四年七月 発行

久間一郎

表紙

短歌

夜の雨(*五首)

緑川英二

24

(*五首)

葵真沙子

24

(*五首)

瀬川一雄

25

(*十三首)

松田研一

25

春深く(*五首)

太田まさ子

26

憂い(*六首)

太田まさ子

27

創作

ある少年のこと

峽草夫

28

紹介

映画『太陽のない街』制作資金借用のお願い

34

芽だち文学サークルにはいりください

34

(芽だち文学サークル(仲間)の会)のきまり)

裏表紙裏

原稿募集

裏表紙裏

あとがき

裏表紙裏

(*広告) 映画『太陽のない街』

裏表紙

第二十二号 原爆記念平和特集 一九五四年八月 発行

表紙絵

久間一郎

表紙

目次

ネルーダ

表紙裏

(*詩)

写真の中の友

1

詩

映草夫

2

盛切飯

草山どをしん

3

くり返すな

泉じろう

4

『八月九日』

太田まさ子

5

波の上で

白石二郎

5

ロスアラモス

池井朔

6

盗まれた火

池井朔

7

月夜の砂浜

ハシモト・ナオシ

8

私の憩いの場

森茂

8

雨

久間一郎

9

Nの愛情?

ハシモト・ナオシ

10

Nに

ハシモト・ナオシ

11

或日の事なんだよ

杉初次

12

強制退院

高村洋一

13

蝉とり

森茂

13

わすれてはならないんだよ 新井八郎/新井しづ

14

二つの読後感

池井朔

15

雑詠(*九首)

太田まさ子

16

ボスー原爆記念に寄せてー 別府藤

17

随筆

金井よし子

18

雑談

「文学の友」編集部

19

通信

「文学の友」編集部

19

詩 “芽だち”の人々に

ハシモト・ナオシ

20

芽だち文学サークルにはいりください

ハシモト・ナオシ

21

(芽だち文学サークル(仲間)の会)のきまり)

20

原稿募集

裏表紙裏

編集後記

裏表紙裏

奥付

裏表紙裏

(*広告) 原爆記念平和週間

裏表紙

第二十二号 一九五四年十月 発行

表紙絵	久間一郎	表紙	1
目次			
創作	死んだ妹とさまざまなこと	池井朔	2—4
詩	原爆詩集 腐臭の原 其の一	うみ・はじめ	5—7
	税金	いいじま・よしお	8
	給料	ハシモト・ナオシ	8
	犬めらよ!	松田研一	9
	世帯のこと	峽草夫	10
	たけのこ	ハシモト・ナオシ	11
	漁師	西久保隆秀	11
	『芽だち』の仲間	ハシモト・ナオシ	12
	二十円のカンパを手にして	太田まさ子	13
	あの爆音が	森茂	13
通信	ローゼンバーグ夫妻に捧ぐ	龍宮きよし	14—15
	松川よりの便り		15
童話	お地蔵さんと三太	太田まさ子	16—17
短歌	平和音楽会(*十一首)	ハシモト・ナオシ	18
	雑詠(*四首)	太田まさ子	19
	(*四首)	松田研一	19
作品評	短歌作品評	米原秀二	20
随筆	観測船	西久保隆秀	21
	うりもの	くさま・ごろう	22

私の日記から	別府藤	23
創作	川柳	24
	(*六句)	25
	あきら	26
	北冬二	26
	芽だち文学サークルにおはいりください	26
	(芽だち文学サークル(仲間の会)のきまり)	26
	原稿募集	裏表紙裏
	(*広告) 別冊・文学の友第4集原稿募集	裏表紙裏
	編集後記	裏表紙裏
	奥付	裏表紙裏
	(*広告) 映画「太陽のない街」	裏表紙
第二十三号 一九五四年十一月 発行		
表紙絵	久間一郎	表紙
目次		
創作	どくだみ草	2—11
短歌	(*七首)	7
	秋(*十首)	11
	芽だちのみなさんへ	12
	昼休み	13
	給料	13
	松露坊主	14
	らんかん	14
	喜び	15
	峽草夫	11
	松田研一	7
	瀬川一雄	11
	渚野平三	12
	渚野平三	13
	渚野平三	13
	きむら・さだお	14
	きむら・さだお	14
	北見沢弘子	15

遺髪	死の死の死の……	池井朔	きむら・さだお	15
	白い稲―別府にうたう―	池井朔		16
	うたごえのために	北見沢弘子		17
	あの娘の顔をみる	北村修		18
	腐臭の原（其の二）	うみ・はじめ		19
	すべてをきずこう	阿辺マサ子		20
壁		本田昇（松川事件被告）		21
通信		松川事件対策委員会		22
童話	丸木橋	きむら・さだお		23
川柳	（*五句）	吉坊		25
通信		葵真沙子		25
短歌	灰皿（*十首）	緑川英一		26
	竹群（*八首）	葵真沙子		27
作品評	観念的な詩と短歌評に 創作『蛾』について	池井朔 吉村高		28 29
	（*随筆） わらすばの記録（二） （*紹介）「松川歌集」刊行について	高村洋一 新井八郎		30 31 35
創作	実おやしさんの怒り			32
編集後記				36
奥付				36

通信

表紙絵	長崎の家	久間一郎	表紙
（*詩）	サークルのなかまたちへ	詩は百万人の友のなかに	
目次		菅原克己	表紙裏
詩	“新しい年の青空を”	公家和郎	2
	大野原	むらやまたかし	2
	窓	池井朔	3
	檻のなかの囚われの石	池井朔	4
	「仕事と生活と」	影山隆	5
	「この細い道を」	影山隆	6
	五月	T・S	7
	愛する人へ	T・S	7
	“三吉の日記”	公家和郎	8
	「フィルム」	影山隆	9
	屠殺場の黒牛	きむら・さだお	10
	もつと多くなれ	うちのしろう	11
	朗読のための詩	一九五四年十一月六日―中国帰	
	還船員を迎えて―仲間たちは帰ってきた		
	休日	公家和郎	12
	俺達は忘れない	今井隆平	13
	松川事件対策委員会／平和擁護日本委員会会長	きむら・さだお	13
	大山郁夫／「雑木林」編集部		
	文学会 元田斗志雄	今戸敏行／熊本	14

詩 腐臭の原(完) うみ・はじめ 15 | 18

ルポルターージュ 「日本のうたごえ」に参加して

丸見沢弘子 19 | 21

(*賀状) 独立映画株式会社 きむら・さだお 21 | 21

(*手紙) ある友よりの手紙 22 | 23

詩 新学期 初田静 23 | 23

通信 まつかわ便り まつかわ発行所 23 | 23

短歌 雨音(*十首) 瀬川一雄 24 | 23

(*九首) 葵真佐子 25 | 25

冬の雨(*十首) 緑川英一 26 | 26

初冬(*十八首) 松田研一 26 | 27

(*随筆) わらすぼの記録(続)(二) 女性の患者の悲しみ 高村洋一 27 | 29

原稿募集 簡単な疑問(池井氏の批判に答えて) 米原秀二 28 | 29

論評 池井さんの批判に答えて ハシモト・ナオシ 29 | 30

(*広告) 「新日本文学」、「文学の友」 31 | 32

作品評 『どくだみ草』 雑感 吉村高 32 | 33

創作 パン 別府藤 33 | 36

老人の死 北冬二 34 | 37

編集後記 37 | 39

芽だち文学サークルのきまり 40 | 40

奥付 40 | 40

40 | 39

第二十五号 一九五五年六月 発行

表紙絵 丸木哲 表紙 1

目次 野間宏を囲んで(一九五五年二月一日労働会館にて)

詩 切手を集める友に きむら・さだお 2 | 3

若芽 きむら・さだお 4 | 5

モータープール附近 阿辺まさ子 5 | 5

俺は新米のメッキ工 池井朔 6 | 7

ウインアッピールに署名しよう きむら・さだお 7 | 8

セーターに寄せて 田辺かほる 8 | 8

二十四号の詩 大山ひろし 9 | 11

短歌 白き粒子(*十首) 池井朔 10 | 11

(*随筆) わらすぼの記録(*三) こすげ 高村洋一 12 | 13

評論 中国の息子より日本の母へ 瀬川一雄 13 | 13

(*手紙) 『蛾』と『老人の死』 映草夫 14 | 15

創作 洋服 草辺鉄 15 | 16

ウイン・アッピールの原子戦争反対の署名運動に参加しましょう 17 | 17

創作 或る日の院長 編集部 18 | 19

評論 私はこういう作品を書きたい―主題の積極性とは 北冬二 19 | 19

創作 なにか― 黒岩鉄雄 20 | 22

創作 花は咲けど 黒岩鉄雄 22 | 24

25 | 36 | 15

(*広告) ルポルタージュシリーズ日本の証言
編集後記 裏表紙裏
裏表紙裏

奥付 裏表紙裏
裏表紙

原子戦争の準備に反対する訴え(ウイーン・アピール)

第二十六号 原水爆反対特集 一九五五年八月 発行

表紙絵 野田巖 表紙

目次 1

(*巻頭言) 原爆十周年と芽たち三周年にあたって
ケロイドは永久に癒えず 島明子 2-3
原爆乙女の会に捧げる 高村洋一 4-5
生活のうた 阿部マサ子 5
『をさな子よ』 高木登 6

丘よ、川よ、故郷の街よ! 黒岩鉄雄 7-9

追憶 池井朔 10

暑い日の哀慟(同志北京にない徳田球一へ) 池井朔 11

ちかい 中村新七 12

狂暴な玩具(映画・水爆実験記録) 池井朔 13

私はあなたを愛する きむら・さだお 14

メーデー 西久保隆秀 15

救急袋 新井しず 15

十年前の出来ごとと今日 阿辺まさ子 16-17

長崎に来て うちやま・よう 18-19

随筆

俳句 原爆回顧(*三句) 島明子 19

随筆 メーデーとIおぼさんの死 西久保隆秀 20

(*手紙) 友よりの手紙 きむら・さだお 21

評論 芽たちの詩について―二十五号合評― 岡屋洋一 22

短歌 泥濘(*十首) 瀬川一雄 23

(*随筆) 強制退院―わらすぼの記録(四)― 坂野住夫 23

創作 九十九枚びら 高村洋一 24-25

(*評論) 創作「蛾」と「老人の死」の批判に込めて 黒岩鉄雄 26-28

通信欄 大牟田自由労働組合つどい編集部/黒岩鉄雄 北冬二 29-31

御挨拶 芽たち文学サークル編集部 32

奥付 阿部マサ子「生活のうた」第二十七号「おわび」に従って筆者名を訂す 32

第二十七号 一九五五年十二月 発行

表紙絵 野田巖 表紙

目次 1

詩 ある人に 山口白雲 2

小鳥の死 山口白雲 2

いかり 山口白雲 3

『バスの窓から』 高木登 3

噴射する指 池井朔 4

『泉庁の仲間たち』 高木登 5

平和記念像 高木登 5

『子供達に幸を』 川内英子 6 | 7

長崎を去る 瀧野平三 7

平和大集会 阿部マサ子 8 | 9

小雨 阿部マサ子 9

(*随筆) 絶望的な詩についての私見 高木登 10 | 11

詩 ひとりごと(朝日新聞「ひととき」所載) 福田須磨子 11

(*評論) "書簡のかたちで" 黒岩さんへ 池井朔 12 | 14

川柳 サラリーマン百態(*十句) 瀧野平三 14

随想 父の残したと云う小母さんの小さな喜び 坂野住夫 15

短歌(其の一) 漂流(*十首) / 白き手(*十首) / 街路樹 15

(*十首) ヤナセ・イチロウ 16 | 17

随想 短歌・随想 柳瀬一郎 17

(*手紙) 友よりの手紙(其の三) きむら・さだお 18 | 19

創作 ある駅での話 黒岩鉄雄 20 | 22

便所の中 高木登 23 | 26

芽だち文学サークルのきまり 26

来信 大牟田市"炭鉱地帯"編集部 北村千麻夫

おわび (*第二十六号「生活のうた」は瀧野平三ではなく阿部マサ子) 裏表紙裏

編集後記 編集部 裏表紙裏

奥付 裏表紙裏

(*通信・広告) 裏表紙

前進座興行部

*カット 久間一郎 2、6、8、10、14、15

第二十八号 一九五六年一月 発行

表紙絵 須山紀一 表紙

目次

評論 作品の批評とサークル活動について—高木さんに

詩 答える— うちの・しろう 2 | 3

あらし 阿部マサ子 4

首切り きむら・さだお 5

わが子にかりてうたえるうた 小堀田誠 6 | 7

顔 新井しづ 7

随想 ある日の出来事 川内英子 8 | 9

川柳 (七句) 苦安人 9

(六句) 吉坊 9

(*随筆) 大晦日—私の日記から— 別府藤 10 | 12

短歌 看護婦(*十首) ヤナセ・イチロウ 13

(*五首) 葵真沙子 13

短歌(其の二) ネオンサイン(*十首) / 汚れし靴(*十首) 15

／霧(*十首) ヤナセ・イチロウ 14 | 15

創作 浴槽で総入歯を洗う 峽草夫 16 | 33

短歌 怒り(*六首) きむら・さだお 25

"松川裁判"の犠牲者救援について 『芽だち』編集部 33

芽だち文学サークルのきまり 33

来信欄

前進座一同／大牟田雑木林編集部

／光る刃物（*十首） ヤナセ・イチロ 13 | 15

（*評論）自由を犯す者

／黒岩鉄雄／萩原芳雄 34

（*随筆）現金医者―私の日記から― 別府藤 16

編集後記

裏表紙裏

生活綴方 天罰観面 黒岩鉄雄 17 | 19

第二十九号 一九五六年五月 発行

通信欄 葵真沙子／長崎文学懇話会／萩原芳雄 19

表紙絵

久間一郎 表紙

原稿募集 芽だちの『狭さ』の問題 編集部 20 | 裏表紙裏

目次

一つの提案 池井（*池井朔） 裏表紙裏

詩 夜の飛行機

池井朔 2 | 3

奥付 *裏表紙裏は21にあたる

母親

山清 3

窓 眠りにつく前に

阿部マサ子 4

春駅

萩原芳雄 5

君!!

向井信行 6

病院

山清 6

自分を捨てて

向井信行 6

ほんとか?

池井朔 7

評論 私も書簡のかたちで―池井さんへ― 黒岩鉄雄 8 | 11

短歌（*五首）

坂野住夫 11

（*広告）「新日本文学」、「現代詩」、「生活と文学」

雪 こんなことこそが 山下順二 4 | 4

評論 文学の構成ということ むらやま・たかし 12

短歌（其の三） チューリップ（*十首）／モルモット（*十首）

飛ぶ髪 散文詩 白炎の庭 池井朔 7

首／埃り吹く街（*十首）／雪降る夜（*十首）

子守歌 山村好一 9

第三十号 一九五六年七月 発行

表紙絵 久間一郎 表紙

目次 私には友だちがない! 村尾茂隆 2

”頑張れ とし子さん” 原則保／上田松子 3

波 山下順二 4

午後 山下順二 4

雪 山下順二 5

こんなことこそが 向井信行 6

飛ぶ髪 池井朔 7

散文詩 白炎の庭 池井朔 7

子守歌 山村好一 9

(＊評論) 29号の詩

池井朔

10 | 11

(＊詩) 原爆平和大会にのぞみて(一九五五・八月) 白雲生

11

短歌(其の四) ともしび(＊十首)／黄濁(＊十首)／仔犬

(＊十首)

ヤナセ・イチロ | 12 | 13

(＊八首)

坂野住夫 | 13

(＊随筆) わらすばの記録(＊五) 梅雨／地蔵さんの血

高村洋一 | 14 | 15

創作 てんぷらとケロイド

水上草夫 | 25

原稿募集 東高校長に

(＊無記名) | 26

編集後記

(＊無記名) | 26 | 裏表紙裏

奥付

裏表紙裏

*裏表紙裏は27にあたる

裏表紙裏

川柳

(＊八句)

吉坊

17 | 17

第三十一号 原水爆禁止特集号 一九五六年八月 発行

(＊随筆) 真夏の手記

池井朔

18 | 19

(＊随筆) 牛深棧橋(＊一)

高木登

20

(＊五首) 平和記念像(＊五首)

葵真砂子

21

魚臭(＊五首)

柳瀬一郎

21

(＊手紙) ロンドンからの便り

水原雅人

21

表紙絵

須山清

表紙

目次

ながさき芽だち文学サークル

2 | 3

(＊巻頭言) 原水爆禁止世界大会を讃える

水上草夫

4

詩

弾道

4

限りなき傷痕

原爆忌に寄せて…… 山下順二

4 | 5

炎のなから

池井朔

6 | 9

親子

楨博

10 | 11

突然変異の話

池井朔

11

(＊カット)

MA

11

詩

椎木武

11

原爆

山村好一

12

明日への歌

きむら・さだお

13

海辺

夏村竜一

14

新聞よむ彼

山村好一

15

友と鐘

誰があのととき信じたらうー如何なる殺戮の兵器も

16

人間の営みに抗し得ず

黒岩鉄雄

16

ひとことでのいゝのだが

黒岩鉄雄

17

バラの白さよー原爆反対の白バラ運動によせるー

黒岩鉄雄

17

(＊三句)

藤(＊別府藤)

17

(＊八句)

吉坊

17

(＊随筆) 真夏の手記

池井朔

18 | 19

(＊随筆) 牛深棧橋(＊一)

高木登

20

(＊五首) 平和記念像(＊五首)

葵真砂子

21

魚臭(＊五首)

柳瀬一郎

21

(＊手紙) ロンドンからの便り

水原雅人

21

人間抵抗の原爆文学創造のために

川内英子

22 | 23

原水爆禁止署名

別府藤

24 | 27

赤岩栄神父一夜世の不正に抗議の弁(＊十句)

別府藤

28 | 30

第三十二号 一九五六年十二月 発行

表紙絵	水産場にて	久間一郎	表紙	1
目次				
詩	はやく昏れる町	池井朔	2 3	
創作	つまらぬ話	水上草夫	4 11	
	時化の街	山本新吉	12 14	
	(*随筆) 牛深棧橋―(二)―	高木登	15	
	(*カット)	MA	15	
	(*随筆) 宙にまよったノート	池井朔	16 18	
俳句	(*五句)	山石正 (*目次は山石正)	18	
	砂川斗争 (*五句)	山口白雲	18	
	日ソ交渉調印なる (*五句)	山口白雲	18	

創作	老婆	山口白雲	31 34	30
連結器 (*無題)		早田広	34	
	池井朔氏へ	黒岩鉄雄	34	
	適当な参考書を!!	M生	34 35	
		M・Q	35	
	(*通信) 大牟田自由労働組合つどい編集部	前進座 / 柳瀬一郎	35 36	
原稿募集			35	
編集後記			36	
奥付			36	

第三十三号 一九五七年七月 発行

表紙絵	K・はしもと	表紙	1	
目次				
詩	母のかた	山田敦彦	2 2	
	雨	山田敦彦	2 2	
	働く人	山田敦彦	2 2	
	少女	那珂すなお	2 2	
	少女の笑うとき	那珂すなお	2 2	
	黒い詰襟	池井朔	4 5	
	孤独について (其の二)	伊藤草二	5	
	孤独について (其の一)	伊藤草二	5	
	平和公園での断想	伊藤草二	6 7	
創作	組合会議	石井敏郎	8 9、13	

(*手紙) 或る高校生への返信	しま・たかし	19	
創作	お寺へ	石井敏郎	20 25
川柳 (*七句)		吉坊	24
創作	第二家族の子等	別府藤	26 30、25
詩	花	水上草夫	29
連結器	黒岩鉄雄氏へ	夏村竜一	31
原稿募集		編集部	31
編集後記		編集部	32
奥付			裏表紙裏

(＊随筆) わらすぼの記録(六) 連休／クイズ 高村洋一 10 | 13
短歌 「黄色い鳥」(＊十五首) 山下順二 14

(＊六首) 葵真沙子 15

版画(拾首) ヤナセ・イチロウ 15

新春(拾首) 柳瀬一郎 16

裸木(拾首) 柳瀬一郎 16

創作 ある脱落者の話 伊藤草二 17 | 27

編集後記

奥付 28 27

第三十四号 一九五八年一月 発行

版画 ヤナセ・イチロウ 表紙

目次 1

巻頭言 長崎芽だち文学サークル編集部 2 | 3

創作 『断絶』 池井朔 4 | 12

川柳 (＊七句) 吉坊 9

(＊随筆) 商売を始めたこと 新井八郎 13

(＊随筆) わらすぼの記録(七) 花を作る(一) 高村洋一 14 | 15

(＊随筆) 老いたる人々の群 森菊枝 16 | 17

(＊随筆) お通夜 石井敏郎 18 | 19

(＊随筆) ポロ買い 大崎ひろし 19

(＊カット) A U 19

詩 夜を生きる 池井朔 20 | 21

短歌 街のともしび(＊五首) 栗風一平 22

赤き尾灯(＊十首) ヤナセ・イチロウ 22

創作 不孝者 別府藤 23 | 25

俳句 トルコシリア戦争(＊三句) 山口白雲 25

市合併祝いの日の二句 山口白雲 25

(＊五句) 山口白雲 25

創作 下請人夫(＊一三) 早田広 26 | 31

連結器 (＊佐世保「サークルなかま」の日野氏からの手紙) 31

編集後記 32

奥付 32

第三十五号 一九五八年三月 発行

版画 ヤナセ・イチロウ 表紙

目次 1

詩 みぞれと土工 水上草夫 2 | 3

冬の景色 谷誠一 4

(＊随筆) こじつけ 高木登 5

(＊随筆) 水泥棒 吉村高 6 | 7

(＊随筆) つれづれに 別府藤 8 | 9

(＊短歌・随筆) M病院長(療友Aへの一首／序／M病院長 捨二首) 10

短歌 寒灯(10首) ヤナセ・イチロウ 11

／あとがき 11

砂丘(10首) ヤナセ・イチロウ 11

(*随筆)	自殺ついで	水上草夫	12	13
創作	下請人夫 (*四)	早田広	14	裏表紙裏
川柳	(*四句)	吉坊	17	裏表紙裏
連結器		(*無記名)		裏表紙裏
編集後記	(*末尾に切刷者からのお詫びがある)			
*カット	Y 2、4、5、6、8、10、11			
*裏表紙裏は19にあたる				

第三十六号 一九五八年八月九日 発行

目次				
創作	下請人夫 (*五〇七)	早田広	2	8
詩	十三年目に	日野善太郎	8	
	窓ガラス	西久保隆秀	9	
	いづみ?	友情?—私をそだててくれた友人へ—	10	
	麦笛	西久保隆秀	11	
	水結	近藤栄治	11	
		近藤栄治	11	
戯曲	原爆地主 (二幕)	原爆十三周記念によせて	12	14
		別府藤	12	14
(*随筆)	小鳥の卵・へびの卵	みしま・あきら	15	
(*随筆)	連休に思う	別府藤	16	
川柳	(*六句)	吉坊	16	
	(*六句)	水上草夫	16	

便り	大島から	武田利江	17
(*随筆)	妻のことによせて	うちの・しろう	18
(*随筆)	街角	裏義光	18
短歌	真紅 (*九首)	ヤナセ・イチロウ	19
	時刻 (*九首)	ヤナセ・イチロウ	19
(*随筆)	中国国旗侮辱事件に思う	木村兵介	20
(*随筆)	いきいきと生きるために	夏村竜一	21
創作	官氣	吉村高	22
原稿募集			25
創作	濠と汽笛	水上草夫	26
編集後記			31
奥付			32
*カット	Y 1、8		32

第三十七号 一九五九年一月 発行

目次				
前口上	海へ通じている部屋	編集部	2	3
詩	『いぶき』	池井朔	4	5
	長崎の思い出	西久保隆秀	6	
	サークルの仲間	たけだとしえ	7	
	土と娘	西久保隆秀	7	
	坂道	原恵子	8	9
		裏義光	8	9

	らくがき三題 (故郷／街／或る心)	水上草夫	10
	思い出四つ	新井八郎	11
	(*随筆) ぼろ家の修繕	吉村高	12
	(*随筆) 私の日記から (車中往来／時間外)	別府藤	15
	(*随筆) 私の毎日	裏義光	17
	(*随筆) 皇太子妃決定の騒ぎについて	木村兵介	18
	川柳 (*十一句)	別府藤	19
	(*随筆) 三角地点	早田広	20
	新年おめでとうございます	芽だち編集部	21
	原稿募集		22
	編集後記		22
	奥付		22
	*カット Y 1、12		22
	第三十八号 一九五九年八月九日 発行		1
	目次		1
	(*評論) 安全保障条約を改定させてはならない!		1

	詩		
	— 子孫を思うとき	高木まもる	2
	くらしのキー	原恵子	4
	満員電車	原恵子	5
	わな	真崎のぼる	6
	らくがき二題 (立身教／或る時)	水上草夫	7
	風と枯葉	脇村隆	8
	(*創作) 馬鹿	赤馬とおる	12
	(*随筆) おばあさんと卵	新井八郎	13
	詩	西久保隆秀	14
	ミーデー	吉村高	15
	(*随筆) 春の大掃除	吉村高	16
	(*随筆) 私は思う	裏義光	17
	(*手紙) 便り	日野善太郎	18
	(*創作) 焦茶の毛糸	別府藤	20
	(*創作) 下請人夫 (*八〇十四)	早田広	21
	編集後記		25
	奥付		裏表紙裏
	*裏表紙裏は41にあたる		裏表紙裏
			裏表紙裏
			裏表紙裏